

生徒支援ネットワーク10の機能チェックリスト

1. 学級担任への支援体制（負担の軽減・声掛け・指導の共有・協働）ができています。
2. 部活動・学校行事等と不登校生徒等との関係や対応についての支援体制ができています。
3. 不登校の児童生徒が所属する学級・学年の受け入れ態勢ができています。
4. 保健室登校の取り組みが整備され、理解されている。
5. 解決に役立つ指導援助資源（関係機関との援助・協力他）が整備されている。
6. 即座に対応するサポートチームを立ち上げる体制がある。
7. 小中との連携ができています。特に小から中に進学するときの理解を図る指導体制ができています。
8. 学校連携や校内コーディネート機能が整っている。
9. 保護者への家庭教育支援体制の広報ができています。
10. 関係機関（適応教室・教育相談所・主任児童委員・福祉医療機関）との連携体制ができています。

生徒の情報収集の三つの視点

学校生活	出席状況・友人関係・成績（得意不得意科目）教師との関係、いじめの有無 （中の場合：小学校のときの好きな先生・嫌いな先生 現在の関係 過去の出席状況 指導要録等に書かれてある内容把握）
家庭生活	家族構成 家庭環境 生育歴 親の職業 金銭に関する意識 携帯電話・ネット・ゲーム 食事 睡眠 家庭の仕事の分担 深夜徘徊の有無 体罰 夫婦の協力関係 経済的事情 家庭教育の実際 親子の対話量 父親の存在位置 家族年中行事
客観的情報	指導の進め方に役立つ資料（「学校と関係機関等との行動連携を一層推進するために」 （学校と関係機関等との行動連携に関する研究会報告 平成16年3月）は必読） ネットワーク運営会議の対策交流・家庭教育環境の改善支援と変化の追求

ネットワークの三つの教訓

- ① 保護者の「心の開き」を特別に重視したとき事態は好転する。
- ② 「親支援」を位置づけたとき、変化のスピードは予想以上に速い。
- ③ 「できるようになりたい」この願いに応えるシステムを提案したとき変化が。
- ④ 「理解と納得にもとづく家庭支援」があれば、子どもも親も変わる。